

# ササユリの促成栽培技術

## 低温処理と定植時期で開花時期を調節

### 1 はじめに

ササユリは我が国特産のユリで、花が美しく香りを持ち、清楚な姿で鑑賞価値が高く、園芸的にも貴重な植物である。一方、山野草花の趣味、愛好ブームにのり、乱獲が進み、自生地から年々減少してきている。そんななか、ササユリは、中山間地域の活性化のために利活用したい資源であり、「観光資源」、「ふるさと特産花き」の素材として期待が大きい。そのため、平成7年度から県農協連、関係農協、農業改良普及センターとともにササユリ産品化技術の開発に取り組んでいる。

ここでは、ササユリ新産品の出荷時期を延長するため、低温処理球根を用いて定植時期による開花調節を試みたので紹介する。

### 2 試験方法

組織培養により増殖した紀伊半島産のササユリ（一部市販のものを含む）を、ハウス内で1、2作養成した球根を用い、70日間、3±1℃、暗黒下での低温処理後、1996年10月8日、11月10日、12月10日及び翌年1月10日に定植した。定植には5号鉢を用い、生育、開花への影響を調査した。定植後は、無加温の温室（窓開放）下で管理した。さらに、1997年には、低温処理期間として70日間、90日間の2水準を設け、9月10日定植で同様の試験を行った。

### 3 試験結果

70日間の低温処理球根を用いた場合、定植時期別の開花時期は、10月8日定植では1月8日、11月10日定植では3月10日、12月10日定植では3月29日、1月10日定植では5月1日であった。10月8日定植では出芽時期にバラツキが認められ、その影響もあって開花時期が1月6日～2月28日と個体間差が極めて大きく、定植時期が遅くなるほど個体間差が少なくなる傾向が認められた。これは、定植後、自然低温に遭遇するためと思われた。また、9月10日定植では、90日間、低温処理することにより、個体間のバラツキが少なくなった。

### 4 おわりに

このように、ササユリの栽培において低温処理をした球根を用い、定植時期を変えることによって開花時期を調節することが可能になり、切り花・鉢花の計画的生産に向け、新しい道が開けてきた。また、各地で「ササユリ」をふるさとの新産品として、また、観光資源として利用しようとする動きが見られるようになってきている。しかし、今後、ササユリの産品化を図るには、①利用目的にあった優良個体、系統を選抜すること、②いかにして低コストで開花球根を養成、確保するか、③球根の腐敗を防ぐにはどうすればよいか等、残された問題も多い。

(育種部 宮本芳城)

表1 ササユリ低温処理球の定植時期が生育・開花に及ぼす影響

定植時期 (月・日)	出芽時期* (月・日)	発蕾時期* (月・日)	開花時期 (月・日～月・日)
10. 8	10.22	11.14	1. 6～2.28
11.10	11.28	1.20	3. 6～3.22
12.10	12.27	2.13	3.26～4. 9
1.10	2. 5	3.23	4.30～5. 7

注) 供試材料：70日間低温処理をした球根

用土：鹿沼土、システムソイル101、バーミキュライトを1：1：1に混合

\*：50%以上の固体で確認できた日を示す

表2 9月定植におけるササユリ低温処理期間と開花時期との関係

低温処理期 (日)	出芽時期* (月・日)	開花時期 (月・日～月・日)
90	9.17	11. 4～11.11
70	9.17	11. 7～2.20

注) 定植時期：9月10日 \*：50%以上の固体で確認できた日を示す

用土：鹿沼土、システムソイル101、バーミキュライトを1：1：1に混合